

令和 3 年 6 月 16 日現在

機関番号：22302

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2020

課題番号：15K17053

研究課題名（和文）開発途上国農村部における金融取引の実態と貧困削減策のあり方に関する研究

研究課題名（英文）Study on Financial Services for the Rural Poor in Developing Countries

研究代表者

布田 朝子 (Fuda, Tomoko)

群馬県立女子大学・国際コミュニケーション学部・准教授

研究者番号：40533815

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、開発途上国の貧困層の生活における様々な金融手段の意義や関係性を踏まえながら、最貧困層への支援のあり方を考察することである。本研究の主な成果は、まず、最貧困層への支援方法のひとつとしての貯蓄グループに焦点を当てて事例研究を行ったことである。特にグループ内の相互扶助に着目して分析を行い、その限界を指摘した。また、他の事例研究の整理などを通して、最貧困層向け金融支援プログラムの分析のさらなる重要性が明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、まず、最貧困層への支援方法のひとつとしての貯蓄グループに焦点を当て、事例研究を行った。貯蓄グループは貯蓄のみならず、信用貸しや相互扶助・保険といった複数の金融手段として機能するととらえることができ、注目される分析対象の一つである。本研究はその最貧困層への意義に関する研究の一つとして位置づけられる。また、本研究では、最貧困層向け金融支援プログラムの分析のさらなる重要性を指摘した。これにより、さらなる分析課題を明らかにすることができ、今後の研究の進展に貢献したといえる。

研究成果の概要（英文）：The main objectives of the research are to examine financial programs for the poor and the extreme poor through a case study in Myanmar and to suggest policy implications for anti-poverty aid programs. A case study of savings and loan groups, comprised of extremely poor rural women, was conducted. In particular, the study focused on mutual assistance within a group, found it limited in such groups, and suggested the need for further research.

研究分野：開発経済学

キーワード：開発経済学 貧困削減 預金 融資 相互扶助 ミャンマー

1. 研究開始当初の背景

開発途上国の貧困に関する研究は、特に開発経済学の分野で、効率性と公平性の観点から研究蓄積が豊富である。特に、貧困の罠に陥るリスクへの回避策や対応策の不備に問題関心が寄せられ、金融サービスのあり方に関して、融資や預金プログラムなどの効果や、情報の非対称性問題に対処する革新的商品・サービスなどについての理論研究および実証・実験研究が進められてきている。筆者のこれまでの研究も、このような問題関心に沿ったものである。特に、筆者自らが現地語で丹念に入手したデータを使いながら、農村貧困層向け信用事業における貸付方法の特徴や貧困層への影響を考察してきた。

これまでの最新の研究成果を踏まえてもなお、残されている重要な実証的課題として、主に次の2点が挙げられる。第一に、様々な金融手段の不備がどのような問題を生み、どのように改善できるのかという点を明らかにする必要がある。資金の汎用性 (fungibility) ゆえに、途上国農村貧困世帯にとって事業ローンや消費ローン、預金、保険などの意義を厳密に区分することは難しいので、これらの考察には詳細かつ多角的な調査が必要になる。しかし、そのようなデータは入手しにくいという問題がある (Collins et al.2009)。第二に、そもそも最貧困層による様々な金融手段へのアクセスを改善すべきなのか、そうであれば何をどのように提供することが有益なのかという点を、さらなる事例研究の蓄積や多様な視角から明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

本研究の第1の目的は、詳細な現地調査から様々な金融手段の不備の関連性やそこから生じる諸問題を明らかにし、それらの改善策を検討することである。本研究の第2の目的は、最貧困層の金融アクセス改善についてその重要性や手法を明らかにして、最貧困層支援のあり方を探ることである。

3. 研究の方法

本研究では、筆者自らが現地語を使いながら農村金融機関(マイクロファイナンス機関や民間銀行、国営銀行、協同組合、国際開発援助機関など)や農村世帯を対象に、一つ一つ丹念に聴き取りをして実態把握を行う。データは全て筆者自らが現地語のビルマ語で丹念に収集し、その過程で実情を丁寧に把握する。それらの調査データとともに、必要に応じて既に入手済みのデータもあわせて分析を行い、最終的にはマイクロファイナンス機関や銀行、協同組合、国際開発援助機関などの動向と、農村世帯の実態やその変化を分析する。

現地調査を行うミャンマーでは、貧困層向け農村金融事業が17年前から実施されており、その対象から漏れる最貧困層向け支援事業も11年前に始められている。そのため、農村金融の多様な機能の実態把握を行う本研究の考察対象として最適な事業が、複数存在する。さらにこれらの事業は、借手農村世帯のニーズ変化などに対応して提供する金融サービスを信用貸しから預金、保険へと徐々に広げており、多様な機能も帯びつつある。最貧困層に対しても、自助組織を作ることによって、一人では難しい銀行利用が可能になるように様々な工夫や支援が行われている。

4. 研究成果

本研究課題の主な成果は、大きく分けて以下の2点である。

第一に、当初の2つの目的の通り、開発途上国の貧困層や最貧困層にとっての様々な金融手段の意義や関係性を踏まえながら、事例研究を行い、研究会での報告や論文刊行などの形で発表を行った。特に、既存の金融支援プログラムでは取り残されてしまう最貧困層について、その支援方法のひとつとしての貯蓄グループに焦点を当てて事例研究を行った。貯蓄グループは貯蓄のみならず、信用貸しや相互扶助・保険といった複数の金融手段であり、他国の事例研究を含めていままなお分析が進められている研究対象である。当該研究は最貧困層への意義に関する事例研究の一つとして位置づけられる。

第二に、上記の貯蓄グループに関する事例研究や、アフリカやアジアにおける他の事例研究の整理などを通して、最貧困層向け金融支援プログラムの分析の重要性が明らかとなり、さらなる分析課題を明らかにすることができた。これにより、今後のさらなる研究の進展につなげることができた。実際に、筆者が代表者となる科学研究費補助金助成事業が開始しており、ひきつづき研究を進展させる見込みである。

上述の貯蓄グループに関する事例研究の概要は、以下の通りである。当該研究では、開発途上国において適切な金融サービスから取り残されてしまうことが指摘されている最貧困層世帯 (the poorest of the poor や the extreme poor と呼ばれる) の女性たちに着目し、自助組織活動を通して金融包摂や自立支援を図る援助プログラムについて分析を行った。

具体的には、コミュニティー型貯蓄信用グループに焦点を当てて、当該グループ内の貸付返済条件がどのように決定されているのか、どの程度の柔軟性が実現されているのか、などについて検討した。分析に使用したデータは、筆者自らがビルマ語と一部英語を用いながら、最貧困村落

の貧困女性たちを一軒一軒訪ねて聴き取りを行って得られた詳細なデータである。取引数は 256 にのぼる。

分析結果として、以下の3点が挙げられる。第一に、当該グループは国連開発計画(UNDP)の支援のもと、グループメンバー同士で助け合うことが目的の一つとして掲げられており、また、グループ内で誰がどの程度経済的に困窮しているかどうかの情報は十分に共有されているにもかかわらず、困窮しているであろうメンバーへ融資実行時に優遇措置を行うようなことはほとんど観察されなかった。融資金の規模や金利水準、返済期間、返済方法などといった貸付返済条件は、融資金の使途(申告ベース)に基づきグループごとに独自のルールで設定されていることが分かった。第二に、資金の借入後の条件変更については、販売予定品目の予想外の値崩れなどという生産活動上のショックにのみ適用されていた。家族の病気やケガなどの不慮の事態については、当該グループではなく高利貸しや親戚などから高コストの借入をしていることが示唆された。第三に、上述のように相互扶助の役割は見られなかったが、最貧困層に便益があることも示された。

以上の分析から、最貧困層向け金融支援プログラムの分析の重要性やさらなる分析課題を示唆することとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Tomoko Fuda	4. 巻 42
2. 論文標題 Examining the Flexibility of Savings Groups with Flexible Loan Arrangements: Myanmar's Self-Reliance Groups	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Bulletin of Gunma Prefectural Women's University	6. 最初と最後の頁 121-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 布田 朝子
2. 発表標題 ミャンマー農村の貯蓄信用グループにおける相互扶助とその限界
3. 学会等名 ビルマ研究会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------